

# 第 57 期中央労働講座 報告書

全港湾東北地方ひたち支部 書記次長 須田信一

今回の学習会を通じて、現在の日本社会・政治情勢と労働組合運動の課題、労働組合の役割は単なる賃金交渉にとどまらず、産業全体の労働条件維持や雇用確保、社会的公正の実現にあることを改めて認識し、港湾の産別運動の歴史的意義について理解を深めることができた。

特に、産別協定や事前協議制度は、先人たちが懸命の闘争によって築かれた「労働者を守る盾」「武器」であり、この勝ち取った制度を維持・発展させるためには、他力本願ではなく中間組織である全港湾労働組合が先陣を切り、地域・職場での主体的な運動と全国へと広がる仲間づくりが不可欠であると感じた。

また、AI や自動化、規制緩和など労働環境が大きく変化する中で、先人たちが築いてきた産別協定や事前協議制度の意義を理解し、現場から組織を強化していくことの重要性を学んだ。

今後は、研修で得た知識を職場活動に活かし運動を積み重ねながら、組合員との情報共有、労働条件の維持改善、組織強化、人材確保、若年層への組織活動の継承、安全確保に取り組み、産別運動強化につなげ団結の力を糧に魅力ある職場環境にしていきたい。